

原発事故被害者 相双の会

連絡先

國分富夫（会長）

住所

〒976-0052

福島県相馬市黒木字迎畑 91-12

電話 090 (2364) 3613

メール kokubunpitsu@gmail.com

事務局

鈴木宏孝 090-2909-6133（浪江）

関根憲一 090-4889-3726（富岡）

板倉好幸 090-9534-5657（南相馬）

帰還困難区域、活動自由化検討を 自民党復興加速化本部が提言案

それには但し書きがあるようだ。被ばく線量を個人ごとで管理して安全確保することが前提だという。これは明らかに事故を起こした責任逃れで「己を責めて、人を責むるな」であろう。

復興加速化本部の会合が開かれたのに合わせ、自民党東日本大震災復興加速化本部（2025年5月13日）は、東京電力福島第1原発事故に伴う福島県の帰還困難区域での活動の全面自由化を検討するよう第14次提言で政府に促す方向で調整に入った。これまでの区域一律での立ち入り規制から個人の放射線管理による安全確保への移行で、帰還困難区域内で手つかずとなっていた森林の整備などの具体的な活動が可能になるという考え方を盛り込んだというのである。これは被害者をないがしろした内容であると怒りを感じる。

原発事故から20年や30年で放射性物質が消滅しないことなど分かり切ったのなことだろうか？命と健康を最重要視する取り組みであるべきだ。

汚染物質は電力会社の敷地外に拡散させるな！

東電と政府は除染で集めた汚染土を公共事業へ再利用、800Bq以上は福島県外へ保管しようとしている。これは正に放射性物質の拡散

である。東京新宿御苑、埼玉県所沢市（環境調査研修所）茨城県つくば市（国立環境研究所）で実証実験しようと目論んでいるが、こんなことを許していたら、原発銀座といわれている日本は、国土技術研究センターの報告では日本付近でマグニチュード6の地震が全世界の17.9%も発生しているといわれています。その他に台風、大雪、大雨等々により災害が起きていますからそれに伴う原発事故が、人為ミス事故、老朽化すれば事故の可能性は高くなる。

原発事故は自然災害と違うのは、福島原発事故を思い出せばわかるように、放射性物質の被害は消滅するまで続き、広く拡散されたセシウム137は半減期30年ですから完全消滅するまで300年、プルトニウムは半減期2万4千年ですから半永久的に障害を受けることとなります。自然に依存しながら私たちの社会、経済は成り立っています。

温暖化が進み生態系に多大な影響を及ぼしていますが、一部の欲望のために壊してしまった結果である。原発も同じで「核の平和利用などあり得ない」と訴えてきたが、金力と権力で強行した結果が、大事故となり命と健康をおびやかすことになってしまいました。

どこから見てもエネルギー源としての原発は必要ないにもかかわらず、執拗に原発に固執するのは、原子力の「平和利用」と「軍事利用」は同一技術であり、いつでも核兵器製造に転用できるという理由からでしょう。

戦争させない1000人委員会東京南部 第9回春の福島を知るバス視察団

4月12日～13日の日程で視察団を結成し、汚染土の中間貯蔵施設をはじめ視察をして頂きました。その感想を156号に掲載してきました。その続きとして今回157号へ掲載させて頂きました。

どうする汚染土？

伊藤光隆

國分さんの主張は明確だった。「放射能汚染を拡散させてはならない！」

放射性物質は拡散させず、集中管理するのが原則だからだ。とは言え、福島だけに犠牲を押しつけて良いのか、というスッキリしないモヤモヤ感が残る。米軍基地を押しつけられている沖縄の問題と同じではないか。そもそも、原発も基地も要らないのだが。

東京新聞の山川記者は、汚染土の処分案を5つ示し、有力な案として馬毛島を冗談ぽく説明してくれた。原発から出るゴミは、100ベクレルを超えたらドラム缶で厳重管理することになっている。中間貯蔵施設には、8000ベクレル以上と以下に分けられた汚染土が集められているが、8,000ベクレルの放射能が100ベクレルまで減衰するには190年かかる。190年管理し続けるには無人島がよいが、適した無人島がないので、自衛隊の基地になっている馬毛島で管理してもらおう。東京へ戻ってから知人にこの話をしたら、「マスコミは取り上げないが、鹿児島は大きな地震が多いからダメ！絶対に。」と言われてしまった。

3層15mに積み上げられた汚染土の上に立ち、汚染土を踏みつけた。線量計は、0.2 μ Sv～0.4 μ Svを示していた。国・環境省は、東京ドーム11個分もの大量の汚染土を20年後には最終処分場へ移すと明言しているが、ノープランだ。最終処分場を見つけやすくするためには大量の汚

染土を減らす必要があるとして、8,000ベクレル以下の汚染土の再利用を進めるべく画策している。そのため、100ベクレル以下が放射性物質として扱う必要がない基準だったのが、8,000ベクレルまで引き上げられた。まさにダブルスタンダードだ。

では、汚染土をどう処分するのが安全なのか。私はまだ結論を出せないが、大熊町や双葉町の住民をはじめ、オープンに議論することが大事である。国が勝手に決めてはならない。汚染土以外で印象に残ったことが、いくつかあった。

①人がいたこと。例年、秋に訪れていたが、住民の姿はなかった。今回は桜が満開の時期で、夜ノ森の公園や駅に多くの人があったので驚いた。特に、公園では親子で遊ぶ姿が見られ、なぜか嬉しくなった。原発事故前は、これが当たり前だったのだ。人々が生きる街を奪った原発事故に怒りがわいた。

②山川記者が、更地にされてしまった道路脇で、元商店街の何mもある、長～い写真を取り出し、みんなで並んで持った。かつて、ここには街の人たちの賑わいがあったのだ。原発事故は放射能をまき散らすだけではなく、人らしく生きる術を奪ってしまった。

③中間貯蔵施設の敷地内には、震災・事故当時のままの施設や車などが放置されていた。ここで働いていた人たちがいたことの証だ。撤去せず残しているのは、津波のすごさを強調し、過酷な原発事故から目をそらす狙いからなのか。穿った見方かもしれないが。

福島に寄り添うとはどういうことなのか。自分は今、どこに立っているのか。福島で学び、311 こども甲状腺がん裁判や大間原発裁判に関わりながら、模索していきたい。

福島中間貯蔵施設視察

増茂しのぶ

視察の動機は福島原発の事故後、一度も現地に入ったことがなく、この目で状況を確認したいと考えていました。復興とはどういうことなのか、福島の人たち（さまざまな方がいますので一言では言い表せませんが）から話を伺いたいと思っていたところ、友人よりツアーがあることをおしえていただき参加することができました。貴重な機会をありがとうございました。

常磐道を進み福島県に入ってからでしょうか、線量を示す掲示板が時々現れ、緊張感が高まりました。昼食のために停車した駅前ではガイガーカウンターを手を持つ方がいたので、覗いてみると数字がどんどん増えていく様子を目にしました。（この時は 2.47μ シーベルト）調べると、東京の平均値が約 0.2μ シーベルトなので、常にその10倍の線量に晒されているということですから、人への影響、特に子どもたちへの影響はどうなんだろうと考えざるをえませんでした。これぐらいなら大丈夫、と言うのは違うように思います。自然にはあり得ないのですから。

いよいよ中間貯蔵施設見学となり、ヘルメット、マスク、手袋を渡されバスに乗り込み、「サンライトおおくま」へ向かいます。ここからは福島原発が一望できる唯一の場所だとのことで、施設内のテラスからはニュースで見覚えのある景色が見えます。その向こうは太平洋が広がっていて、数年前にカナダを訪れた時に言われた言葉を思い出しました。「あなたたち日本人はとんでもないことをしてくれた。世界に放射能

をばら撒いて、私の友人はそれで被爆した。」と。カナダにいて爆発と同時に被爆するというのは正直考えられなかったのですが、私はただただうなずいて彼の話の話を聞きました。世界は繋がっているのですから、否定もできません。それにこんなにひどい事故は起こしてはならないのです。この事故をきっかけに脱原発に転換し



た国はドイツ、ベルギー、台湾が挙げられます。他にも検討中の国もあり、事故を起こした当事国の日本が、いったい何故原発を推進するのか理解ができません。実際に時が止まったサンライトおおくまの敷地に入り、普通に暮らしていた人々の日常を奪った原発事故を目の当たりにして、心が沈んでいきました。

汚染土が「保管」されているところは保管と言って良いのかどうか、何重にも覆われていると言えども野ざらしなので、ほんとうに大丈夫かどうかわかりません。下に8,000ベクレルの土があるけれど、ほら線量は少ないですよと言わんばかりにガイガーカウンターを渡されました。確かに私が測ったところは 0.3μ シーベルトなので少ないのかもしれませんが、でもそれを持って安全と言えるのか、高線量に慣れてしまえば少なく感じるのかもしれませんが。汚染土を使った道路工事の実証実験は見た目は普通の道路ですが、いつか磨耗して汚染土が外に出る可



展望台から第一原発を見る

能性は否定できません。これを全国に持っていき未来永劫管理はできないでしょう。最後にバスが止まったところに「2045年3月12日帰郷日」と書かれた石碑がありました。汚染土は動かさないでそのままだと良いと思っていた気持ちが揺らぎました。

国分さんの話を聞くまでは、汚染土処理のために土地を提供した人々の気持ちを踏み躪るよ

うなことはしたくない、けれど汚染土を持ち出すことはダメだと思ふ気持ちもあり、なかなか考えがまとまりませんでした。しかし貯蔵施設見学の翌日に国分さんから「汚染土は福島県外に出してはならない」「誰が決めたんですか？福島の人が決めたんではないんです」と聞き、ああそうか、勝手に決められたことで、福島の人が合意しているわけではないんだと、納得できました。ただやはり、土地を提供した人のことは忘れてはなりませんし、何らかの形で納得してもらえるように国は働きかけなければならないと思います。私たち県外の間人も他人事と思わずに、まわりの人たちに話していくこと、デモに参加する、意見書を出すなどできることからやっていきたいです。汚染土は迷惑だ、とただ拒否するのではなく、なぜこうなったのか、それは原発があったからに他ない、ということ伝えて脱原発の賛同者を増やしたい。それがうまくいくかどうかは一人一人に任されていると感じます。



汚染土が県外へ運び込まれたら帰還すると宣言する石碑

福島ツアーの感想

企画をしていただきありがとうございました。

国分さんの話を実際に聞くことは大変重みがあると思います。私も福島の人から話を聞くのは初めてでしたし、そのような人は大勢いますよね。何でもそうですが、自分事として考えること、それがまず第一歩、そして次の行動が生まれます。国分さんの話は行動を促す力があると思います。私の次の行動は伝えることです。上に長く書いてしまいましたが、地道にやっています。

中間貯蔵施設は無駄そのものと感じました。しかし作ってしまった以上、これを維持していく他はないでしょう。県外に運び出すことは放射能被害が出る可能性があり、しかもお金の無駄遣いとなる、トラック何往復？…やめさせたいです。

福島ツアーに参加して 山内正紀

本当に久しぶりの2度目の福島訪問であった。福島ツアーの少し前、中間貯蔵施設にある汚染土の再利用をめぐる、さようなら原発運動を担うリーダーの中に「福島に思いを寄りそうべきだ」との声があることを、もれ知った。この意見の意味するものは何か。私が直接に聞いた話ではないので、正確なことは言えないが、少なくとも「全国での汚染土再利用反対とするだけでは済ませられない」との思いが示されている

のだと思う。それだけに、今回の中間貯蔵施設の視察を通じて「福島に思い」がどこにあるのかに、大きな関心を寄せてきた。

しかし、結論を出しきれていない。「馬毛島の基地建設への汚染土利用も一案」とする東京新聞・山川記者の提案には、基地反対の立場をとるものとして違和感があるし、国分さんからは「除染土は福島県外に持ち出すべきではない」との根源的な姿勢が示されたが、東京に住む一人としてそれを受け止めるだけでよいのかとの思いは残る。同時に、「福島に思いは一様でない」ことも感じた。ただはっきりしているのは、汚染土処理の方途がどうであれ、論議の大前提はまず原発を中止することではないかということである。

初めて見た夜ノ森の桜は素晴らしかった。その見事さは、私の好きな政治学者の原武史氏が「朝日新聞」Beに連載中の「歴史のダイアグラム」(4月26日)に「よみがえる夜ノ森の桜」とタイトルして紹介している。我われのツアーの2日前、4月10日の訪問記である。よみがえるべきは夜ノ森の桜だけではない。現地の国分さん、山川さん、ツアー事務局の皆さん、そしてご一緒した参加者の皆さん、ありがとうございました。



中間貯蔵施設視察前に大熊町強制避難となり荒れ果てた繁華街写真を掲げる

鳥屋良枝

今回の旅に参加するまで、中間貯蔵施設(と事業)に関して認識が足りていず、「汚染土＝福島ものは福島にとどめおいて」と首都圏の人がいうのを嘆かわしく感じていました。それが今回、「福島から出すべきでない」と福島の方(国分さん)が言われる重みに、気づかされました。自分の土地を、生活を、国のため未来のために、諦め差し出さざるを得ない。もう帰還して住むこともないとわかっている方々もそうせざるを得ない。

その方々に、未来の安全を盾に苦渋の決断を強いたものなのに中間貯蔵事業は結局、未曾有の原発事故の深刻な影響を矮小化し、「汚染も対策可能なんです、だから原発は大丈夫、復興も順調ですよ」というプロバガンダをやるどころだったのですね。情報センターの職員さんらともお話できましたが、それぞれに想いに折り

合いをつけて勤務しておられるのだろう、と感じました。

「日本の原発は安全です」と言って福島に原発を受け入れさせたやり方と同じで、今度は「原発事故はたいしたことなかった」とノーマライズに躍起になっている、狂気の国策。その後ろにあるのは原発利権、そして核へのアクセスの保有でしょう。

市民としてできることは、認識すること、声を発すること。その教えをいただける旅を、今回もありがとうございました。いろいろな方とこの経験を一緒にできることも貴重です。次回の旅も参加させていただきたいです。国分さんの養蜂シーズンと重なりませんよう。またどうぞよろしく願いいたします。

(追：馬毛島に汚染土を持っていくことは反対です。南西諸島にこのうえに汚染土まで負担させるなんて、本当にあってはならないことで。)

東日本大震災・原発事故

震災・原発事故からすでに14年過ぎても行方不明は2,500人、今も捜索は続く、不明者の多いのは岩手県大槌町、宮城県女川町、南三陸町でリアス式海岸が原因ではないかと思われます。

福島第一原子力発電所周辺市町も行方不明者が多い。原因は原発事故により強制避難と十分な捜索活動ができなかったからであると思われます。現在、南海トラフ地震がささやかれています。東日本大震災では関連死を含め2万2千人、南海トラフ地震となれば死者数32万人ともいわれています。その「想定震源域」内に立地するのが浜岡原発(静岡県)伊方原発(愛媛県)川内原発(鹿児島県)である。福島第一原発の事故を思い出せば想定外では済まされない。あきらかに人災である。

被ばくについて

大量なら死、被ばくが少量であってもガン・白血病などが懸念される。そのため、放射線を取り扱う国では、法令で被ばくについて規制してきた。日本でも、一般の人には年間1mSv以上被ばくをさせてはならないという法令でさだめられている。

ところが、日本政府は福島第一原発事故で即「原子力緊急事態宣言」を発令し、「緊急事態」であることを理由に法令を反故にした。※福島原発事故ですでに環境汚染してしまった放射性物質の場合には、子どもを含め、年間20mSvの被ばくを許すというとんでもないことを国が勝手に決めた。残念なことにこれが日本の実態である。